



日刊 動労千葉

82.8.27
No. 1132

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)四三三二・七二〇七

「情報地本報」を自ら認めた「ブルトレの裏切り」

ブルトレの裏切り

自らの裏切りを居直る動労「本部」 革マルを許さず、さらに弾劾しよう！

デッチあげ『動労千葉地本情報』(No.165、82.8.19)は、動労「本部」革マル反動分子の「仇こう運動」「ブルトレ問題」の歴史的裏切り」に対するのが『日刊動労千葉』の連日ゆたる弾劾と的確な指摘にいたされず、「階級的裏切り」と松崎明の自民党・国鉄当局との通席談合」の事実についてあれこれ言及しつつ、しかし内容的にはこれに一切反論せず、この事実そのものを否定もせず、自らの情報でこの「通席談合・裏切り」を公然と認めるに至った。

われわれは、こうした動労「本部」革マル反動分子の驚くべき腐敗と一層の居直りに対し怒りも新たに更に徹底的に「仇こう運動」批判と「ブルトレ」に表われた階級的・歴史的裏切り」への弾劾を叩きつけなければならぬ。全国の叩く国鉄労働者は一刻も早く彼らを動労から、国鉄戦線から追放・一掃しなければならぬ。

「通席談合」裏切り取り引きなどなかつた」との一言が決して言えない
「本部」革マルの苦しい胸のうち

全国からまき起っている「ブルトレ」旅費返着」の裏切りへの弾劾にいたされず、なんとかゴマカそうと必死の「動労千葉地本情報」(以下、「情報」と略す)は、またしても革マル独得の「謀略」論をもちこむことによつてすりぬけようとしているが、そんな使い古したパテンで、組合員をだますことなど、もうできない。「情報」のパテン的・居直りの論理は次の如くである。即ち、

「①臨調答申の中心課題は、国鉄の分割Ⅱ民営化である。②動労は、分割Ⅱ民営化を阻止するために「取場と仕事と生活を守る」ために奮闘している。(「仇こう運動」路線)。③従つて今日、権力内の「謀略グループ」による様々な動労攻撃が激化している。④今全国で「動労松崎が当局・自民党と通席談合」とか「動労カクマルの階級的裏切弾劾」というピラが多数まかれ、マスコミがその事を書き立てているのも「謀略」の一環である。⑤それは悪質な列車妨害や組合役員へのイヤガラ

セの電話がふえていている事を見れば明らかである。……」
という「反論」ならざる「自認」である。この「情報」の反動的な特徴の「オ」は、この長ったらしい言い訳の中に、たつたの一言半句でも「新聞やピラが書いているような『通席談合』裏切り取り引きなどなかつた」と言いきれない、という決定的な事実である。それほどこまでに動労内外に広く知れわたつて居る「松崎」当局「自民党」の腐敗したゆ着関係は現実の事実問題としてごまかしのきかない事実だという事である。

自らが屈服し取り引きしてうけ入れた「緊急措置十一項目」攻撃のことは、意図的に一言もふれず！

更に、この「情報」の反動的な特徴の「オ」は、「オ」臨調答申の中心課題は「国鉄の分割Ⅱ民営化である」という事のみを強調する事によつて、実は動労「本部」革マル反動分子自らが「仇こう運動」をもつて裏切りと屈服と卒先協力している最も中心的かつ重大な攻撃である「緊急措置十一項目」攻撃Ⅱ国鉄労働運動解体攻撃について一言半句もふれず、おしかくしているという点である。(裏に続く)